

地歴公民(日本史) 慶應義塾大学 経済学部 1/1

<全体分析>

試験時間 80分

解答形式

選択式 21 問 (記号選択 8 問、年代整序 13 問) 記述式 9 問 論述 10 問 計 40 問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数 3 題は昨年度と同じ。設問数は 38 問から 40 問に増加した。記号選択が 1 問減少し、年代整序が 2 問増加し、記述が 1 問増加した。論述は設問数も全体の字数 (全 20 行) も同じであった。試験時間 80 分に余裕があるとは言えない。

出題の特徴や昨年度との変更点

論述問題が他学部比べて突出して多い。また、史料・グラフ・地図などの資料を用いた出題が多くを占める。

新課程を踏まえた出題

歴史総合に関する出題があった。大問 I の問 1、問 6、問 8、大問 III が世界史と共通であった。

その他トピックス

知識ではなく、資料を読みこんで解答する思考力を問う形の論述問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記号選択 年代整序 記述 論述	万博の歴史 《史料・グラフ・地図》	問 1 歴史総合の対策が十分でない受験生にとっては、3 問とも難。問 2②は、3 行でまとめる点がやや難。③の「万延貨幣改鋳」は万延小判鑄造といった表現でも問題ないだろう。問 6 は歴史総合の要素もあり、かつ地図上の位置を問う問題であるので、いずれも難。	難
II	記号選択 年代整序 記述 論述	高橋是清の業績から見る近現代史 《史料・グラフ》	問 10 重複使用不可の条件があるので c は空欄 4 に入ると判断できる。問 11 やや難。公議政体論を慶喜の考えと結びつけて記述できたであろうか。問 14 皇道派と統制派の主張を具体的かつ正確に記述するのはやや難。問 15③の年代整序問題は、a と b の時期判断に迷っても c と d の時期判断と重複使用不可の形式を合わせると、正解できる。	やや易
III	論述	明治末～大正期の米穀の移入と輸入 《史料・グラフ》	問 16、問 17 ともに、日本史の知識がなくても、その場での史料とグラフを読み込み解析できれば解答できる論述問題であった。	易

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

歴史総合の要素など一部難問は含まれるものの、大半は標準的な知識もしくはその応用で正解が導き出せる問題なので、教科書の内容を史料・地図なども含めて確実にマスターしておきたい。また、未見史料やグラフ・統計などの資料対策として、過去問などの演習を通じて思考力・判断力を身につけてほしい。さらに、歴史の因果関係を踏まえた学習は、年代整序問題はもちろんのこと、グラフの時期特定問題や論述問題にも役立つだろう。平易な論述問題は確実に得点できるように、普段から訓練しておきたい。